

平成十八年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム・挨拶

著者	?澤 慧二
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	12
ページ	3-3
発行年	2007-04
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000425/



挨拶

仏教文化研究所長 柳澤 慧二

鶴見大学学長は仏教文化研究所長も兼務する規定になっております。本日は学内でこの会も含め、三つの会が開催されています。当会は午後のスタートなので、駅からは遠いのですが山の上の会場になりました。暑苦しい会場となったことをお許しください。

最近の世情を見ると、幼い子どもを簡単に殺す事件が多発しています。これは大人が正しい人生を送る教育を受けていないためではないかと思われ、私ども宗門の大学は、責任を痛感しています。

あるテレビ番組で、親鸞聖人、日蓮上人、道元禅師がほぼ同時期に現れた理由に、時代的背景があるのでは、ということを目にしました。中世が混乱した社会であったことが、仏教者としても、哲学者としても偉大な方々を生み出したのではないかということです。現在の日本社会も混乱しており、偉大な思想家が求められていると感じています。

その意味で、道元禅師という偉大な方の後継者として尊敬され、また私どもの大学の大本である總持寺のご開山である瑩山禅師の人間観、思想について勉強の機会を持つことができましたことは、意義深いと思います。皆さまにはご清聴され、討論に積極的に参加していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。